

NEWS RELEASE



ナイス株式会社

2017年8月29日

住宅の耐震化をキーワードに最新の家づくりを紹介する住宅総合展示会「住まいの耐震博覧会」**入場無料**

住宅の耐震化や省エネ住宅、スマートウェルネス住宅の最新情報を一挙に発信

9月16日(土) 17日(日) マリンメッセ福岡 「木と住まいの大博覧会」を同時開催

◆ ニュースポイント ◆

ナイス株式会社(社長:平田 恒一郎、本社:神奈川県横浜市)は、9月16日(土)、17日(日)の2日間、「住まいの耐震博覧会」をマリンメッセ福岡で開催いたします。

「住まいの耐震博覧会」は国内外の建材・住設機器メーカーや販売店、工務店、金融機関、地方自治体など、住宅づくりに関連する企業や団体が一堂に会し、住宅の耐震化をテーマに耐震診断や耐震補強をはじめ、地震に強い家づくりや環境、健康、高齢者に配慮した住宅、リフォームなど一般ユーザーからプロユーザーまで幅広く情報を発信する住宅総合展示会です。

当日は、木材を使用した住宅や中・大規模木造建築物、木製品、木育、学術研究など、木に関する最新の製品・技術・情報をふんだんに紹介する木材総合展示会「木と住まいの大博覧会」を同時開催いたします。



1万6,654名が来場した2016年の「住まいの耐震博覧会」

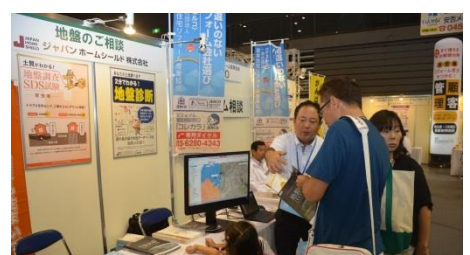
◆ 専門家による住まいの相談会を開催

「平成28年熊本地震」は、観測史上初となる2度の震度7をはじめ、震度6弱以上の激しい揺れを7度も引き起こしました。この地震による死者は247名、住宅被害は全壊8,672棟、半壊3万4,514棟、一部損壊16万1,923棟に上るなど(8月14日現在)、熊本県を中心に甚大な被害をもたらしました。

熊本県益城町で(一社)日本建築学会が行った調査によると、1981年以前の旧耐震基準で建てられた木造建築物のうち28.2%が倒壊・崩壊、17.5%が大破し、小破なども含めると94.8%が被害を受けています。一方、1981~2000年の新耐震基準で建てられたもののうち倒壊したものは8.7%、阪神・淡路大震災を受けて2000年に改正された現行の建築基準法で建てられたものについては2.2%に留まるなど、建築年によって被害状況に大きな違いが見られました。当時の被災状況などをパネル展示などを通じてお伝えします。

会場では、福岡県をはじめ、熊本県、大分県、佐賀県、長崎県、宮崎県、鹿児島県の九州全県の耐震化促進に向けた施策を紹介します。

(独)住宅金融支援機構やみずほ銀行、肥後銀行、熊本銀行、福岡銀行も専用窓口を設置し、災害復興住宅融資や住宅ローンの相談に応じるほか、ファイナンシャル・プランニングや法律相談、地盤調査など九州地方にお住まいの方々のお悩みに無料でお応えします。



金融機関や各種専門家が相談窓口を設置し、住まいのお悩みに無料でお応えします。

◆住宅の耐震化や防災の最新情報を発信

会場ではご自宅の耐震性能を簡単に判断できるよう、「旧耐震基準（～1981年）」「新耐震基準（1981～2000年）」「現行の新耐震基準（2000年～）」と建築年ごとの耐震性能の違いなどを、動く耐震模型を使って分かりやすく説明します。

最新の耐震改修方法や耐震補強部材などについて、天井や床を壊すことなく住まいながら補強することができる木質繊維ボードや石膏ボードで作られた耐震補強壁や、開口部に建物の外側から補強したり、基礎を強固にする補強部材など最新の耐震改修方法について、躯体への施工例などを通じて紹介します。NPO法人住まいの構造改革推進協会では、ご自宅の耐震性能や耐震診断、耐震改修の相談に応じるほか、家庭で取り組める具体的な防災アクションに役立つ書籍を配布します。

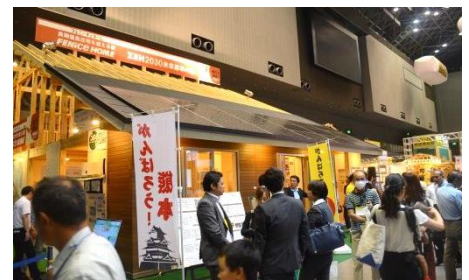


動く耐震模型で旧耐震基準と新耐震基準の耐震性の違いを分かりやすく説明

◆耐震性・断熱性・省エネ性に優れた住宅をご提案

ナイスグループが熊本県を中心に復興応援型住宅として展開していく「フェニーチェホーム」を実物大躯体で展示します。「フェニーチェホーム」とは、耐震等級をはじめ長期優良住宅を上回る高い基本性能を確保することを前提とし、更に被災された方のニーズを追求した住宅として商品開発したものです。「フェニーチェホーム」の実物大構造躯体を、環境や健康に優しい天然素材として木質系繊維断熱材を用いたスマートウェルネス住宅仕様で展示します。

「フェニーチェホーム」に採用されているパワービルド工法は、高い強度と耐久性を誇り、ボルトやナットを使わずドリフトピンを打ち込む簡単な工法のため、高い熟練度がなくても均一かつ精度の高い構造体を短工期でつくることのできる工法です。住宅はもちろん学校、病院、老人ホーム、店舗といった中・大規模木造建築物など幅広い建築に使用されています。会場では、パワービルド工法によるミニチュア構造躯体の建て方実演を実施します。



実物大躯体で展示された昨年の復興応援型住宅「フェニーチェホーム」



オリジナル金物の接合によるパワービルド工法

◆話題のZEHを徹底解剖

地球温暖化対策の新しい国際ルールであるパリ協定において、日本は2030年の温暖化ガス排出量を2013年比で26%削減する目標を掲げています。中でも家庭部門では40%の削減が必要とされており、国はZEH（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）の普及を促進しています。

合理的なZEHの建築に向け、ナイスグループが推奨する商品群を集めた「ZEHパッケージ」を紹介します。「HEAT20（2020年を見据えた住宅の高断熱化技術委員会）」が提唱する最高レベル「G2グレード」の断熱材の施工について、充填断熱と外張り断熱を施したミニ躯体で解説します。



基準ごとの断熱性能の違いについて、ミニチュア模型でわかりやすく紹介

◆健康寿命の延伸に寄与し環境にも優しいスマートウェルネス住宅

超高齢社会となった日本において、日常的に介護を必要とせずに自立した生活ができる期間である「健康寿命」の延伸は最重要課題の一つとなっています。健康長寿社会の実現は人々の幸せに直接関わる課題であるとともに、医療・介護費の抑制による財政健全化など社会全体に良い影響を与えるため、国は「スマートウェルネス住宅」の普及を推進しています。

スマートウェルネス住宅ブースでは、木と鉄、コンクリートの熱伝導性能の違いを体験できるコーナーや、リビングやキッチン、寝室などの空間展示などを通じて、健康に良い影響を及ぼすとされる木のある暮らしについて紹介します。



断熱材の素材の違いによる快適性の違いを体験

◆安全性や機能性、省施工性に優れた商品をご提案

国内外の建材・住宅設備機器の有力メーカーが一堂に会し、外壁や水回り、屋根材など住宅を形づくるあらゆる商品を紹介し、安全で安心、快適でエコな暮らしを実現する機能性とデザイン性に優れた新商品が展示されます。展示ブースでは、最新の商品プロユーザーだけでなくエンドユーザーにも分かりやすいように多彩なセミナーやデモンストレーションで紹介し、



様々なデモンストレーションが行われ、多くの人が集まるメーカーブース

ナイスグループの基礎資材、副資材のプライベートブランド「ZENIYA」では、養生テープやボンドなどの定番商品のほかに、大型システム収納などの省施工性に優れた商品や耐震壁と制震壁の特長を兼ね揃えた最新の壁補強材などを紹介します。また、国産材のスギを使用した内装材の新商品を展示します。

◆総合シンポジウム 『熊本地震を振り返り、これからの木造建築を考える』を開催（要予約）

会場：マリンメッセ福岡 1F メインステージ

時 間	パ ネ リ ス ト
9月16日(土) 13:00~14:00	東京大学 名誉教授 / (一社) 木と住まい研究協会 代表理事 有馬 孝禮氏
	(公社) 日本建築士会連合会 会長 三井所 清典氏
	京都大学 生存圏研究所 生活圏構造機能分野 教授 五十田 博氏
	東海大学 海洋研究所 教授 地震予知研究センター長 長尾 年恭氏
	株式会社田中材木店 代表取締役副社長 田中 信敏氏

予約及びお問い合わせは:03-3568-3714 (一社)木と住まい研究協会

◆開催概要◆

名 称：住まいの耐震博覧会

日 時：9月16日(土) 10:00~17:00
9月17日(日) 10:00~16:00

入場料：無料

会 場：マリンメッセ福岡

主 催：ナイス株式会社

協 賛：木材・建材・住宅設備機器有力メーカー

後 援：ナイスパートナー会連合会、ナイスわくわくクラブ、素適木材倶楽部、(一社)九州経済連合会
(一社)木と住まい研究協会、(一財)強靱な理想の住宅を創る会
NPO法人住まいの構造改革推進協会

ホームページ：<http://www.nicefair.com/>

この件に関するお問い合わせ先*****

ナイス株式会社 広報室 宮川・杉野 TEL：(045) 501-5048
〒230-8571 神奈川県横浜市鶴見区鶴見中央4-33-1 ナイスビル8F